

台風の影響と生物

■台風による泥の堆積

10月は18号・19号と2つの台風の影響を受け、調査が10月後半にずれ込むこととなった。普段は砂地の導流堤付近(Fig.1)に泥が3cmほど堆積しており(Fig.2)、台風により運ばれたものと思われる。投網を打つと海底の泥が舞い上がる状態で、導流堤付近の干潟内にも泥が堆積していると思われる。しかし、クロダイやヒメハゼ(Fig.3)、多数のマゴチの稚魚(Fig.4)が見られるなど魚類はあまり影響を受けていないようであった。



Fig.1 導流堤付近



Fig.2 泥の堆積

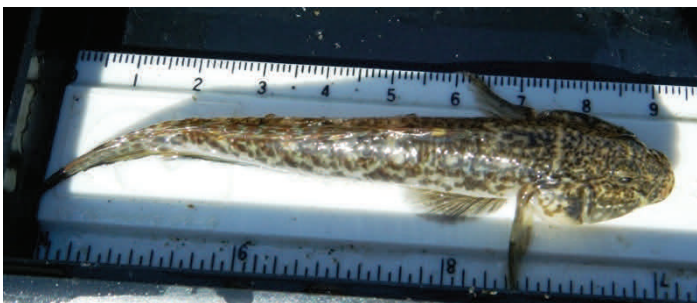


Fig.3 ヒメハゼ



Fig.4 マゴチ

■泥の堆積がカニに与えた影響

泥の堆積は魚類には影響を与えなかったようであるが、カニは影響を受けたように思われる。泥が堆積した導流堤付近や七北田川河口付近の砂地部分(コメツキガニが作った砂団子)では、普段見られないアシハラガニが複数見られた(Fig.5)。本来の生息域ではない砂地でアシハラガニが見られたのは、巣穴が泥で埋まってしまい隠れる場所がなくなってしまった可能性が高い。

今回、干潟全域をくまなく調査したが、泥の堆積が確認された場所以外で、砂地を移動するアシハラガニを見ることはなかった。



Fig.5 砂地を移動するアシハラガニ

(佐藤 賢治)